



淳城南小学校  
教諭  
佐藤 牧子

## これが私の 指導法

～知的財産の継承～

本校は長年、重点教科を決めず、どの教科等からでも研究主題に迫り、総合的に学力を鍛えてきました。また、総合的な学習の時間と他教科を関連付け、横断的

に日々の学習に取り組んでいきます。A群(国社算理)で分かる授業、B群(音図体家・外国語)で楽しい授業、C群(道徳・特活・生活・総合)で心を耕す授業を目指し、三つの群からバランスよく授業検証をすることにしていきます。

私は、特に小学校の教師には、「バランス感覚」が必要だと思っています。特定の教科に力を入れすぎない、図工や音楽も大事にする、体験あって学びなしではないけれど、体験すら計画しないので

は心が耕されない。そこで最近着目しているのが、音楽や体育等での学級づくりや生徒指導の機能を生かした授業づくりです。運動や演奏技能には大きな差があり、それを無くすことには無理がありません。でも、技能面が苦手な子も、積極的に学習に関われる場づくりや、教材・教具の工夫は、学級力のアップやよりよい人間関係の構築につながります。また、日々の授業でいつも口にして言葉が「まちがいは宝」「失敗は宝」で

す。堂々と誤答例を紹介しながら

### 第五小学校

教諭 熊谷 誠



「確かな学力を身に付け、学び合う子どもの育成」  
「聴く力・話す力・話し合う力を高める指導法の工夫」

本校では、問題解決的学習を取り入れながら、よりよい指導法や指導過程の在り方や、対話的な学びの場の効果的な設定方法などを模索しながら、「聴く力」「話す力」「話し合う力」の向上を目指してきました。

今年度は特に「聴く力」を基盤にした「話す力」の育成に焦点を当て、以下に挙げる三つの研究の重点の「工夫改善」によって、発

言するということ意識を強くもって活動に臨もうとする児童の姿にアプローチしていきたくと考えている。  
重点① 学習の基礎・基本が定着して主体的学びを育む「指導法」や指導過程などの工夫改善  
身に付けさせたい力を明確にして学びの質を重視した学習指導や学習過程、目的意識や解決への意欲を喚起して主体的な学びを促す課題の設定・提示、学習の流れが見え、児童の思考を促す板書やノート指導などについての研究を深める。

重点② 個の考えが深まり広がり問題解決へとつながる「学びの場の工夫改善」  
対話的な学びを重視した学習過程を組み、児童の発達段階や教科の特性、学習の目的に応じた学習形態、学び合いの場における教師の支援(効果的な発問や助言、意見の整理や取り上げ方など)を研究・実践していく。

重点③ 聴く力・話す力・話し合う力を継続的に育む「授業以外の活動の工夫改善」  
はげみ学習での取組(読解力ドリル、スピーチタイム)や読書タイムのほか、日常生活においても言語活動を意識した場や機会を積極的に設定し、継続指導にあたる。



### 編集後記

各種学校訪問が始まっています。授業等の準備はもちろん大変ですが、終えてみると、子どもの成長を感じるのはないでしょうか。「今日は目指す姿へと子どもが近づく日、新たな〇〇を身に付ける日」等と、学校訪問を機会に授業改善を進めてくださればと思います。これから暑くなりますが、元気な子どもたちに負けないよう、体調管理をお願いします。(M)



学び合っていく、まちがいに気付いたことを賞賛することで「まちがっても大丈夫」「失敗しても励まそう」という温かい明るい雰囲気をつくりたい。言うのは簡単ですが、まだまだ道は半ばです。年間を通して、それぞれの教科等に「ここが頑張る所・押さえ所」という場面や時期があります。ここぞという時を見逃さず、教師の助を働かせて、バランスよく指導する。授業のプロを目指す道には、終わりがありません。